

# 広島大学と英国サセックス大学 との交流協定

文学部英文学講座 湯浅 信之

一九九二年九月十四日にサセックス大学の副学長レズリー・フィールディング氏が二名の事務官を伴って来広、田中隆荘学長との間で両大学の学術・教育交流に関する協定書が締結された。広島大学は既にオックスフォードのウォードム・カレッジと学生交流を行っているが、英国の大学との学術交流も含めた協定はこれが初めてである。

## 協定文の内容

日本国広島大学と連合王国サセックス大学は、両大学間の教育研究の協力と交流を通じ、日本国と連合王国及び両大学間の相互理解を深め、かつ学術の進歩、発展に貢献するため、ここに学術・教育交流協定を締結する。

第一条 両大学は、次の事業を行うことに同意する。

- (1) 共同研究の実施及び国際研究集会の開催
- (2) 教職員の交流
- (3) 研究成果、学術刊行物及びその他の学術情報交換
- (4) 学部及び大学院学生の交流

(5) その他両大学が適当と認めた学術交流

第二条 前条に定めた事業の実施に当っては、両大学又はその関係部局間で協議し、実施するものとする。

第三条 本協定は、両大学の代表者が署名を行った日から効力を生じ、五年間有効とする。ただし、期間満了に際し、いずれか一方より特段の申し出のない限り、引き続き更新する。  
(以下省略)

## サセックス大学の概要

周知のことと思うが、英国の大学は大別して、学寮制度を持つ旧大学、赤レンガ大学と



レズリー・フィールディング副学長、田中学長

呼ばれる今世紀初頭に創設された大学、板ガラス大学と呼ばれる一九六〇年代に開設された新大学のなかで最も優れた評価を得ている大学である。その主な理由は、学寮制度や、学部制度ではなく、スクール・オヴ・スタディズと呼ばれる幅広い研究分野を基にした組織をもち、学際的な研究を推進してきたことにある。たとえば、筆者の専門分野で言えば、英文学だけの研究ではなく、歴史、哲学、美術史、音楽などとの関連を探索することになっ





サセックス大学構内

ている。その結果は、ケンブリッジ大学について多くのノーベル賞受賞者を出し、王立協会の会員を有しているとのことである。  
スクール・オヴ・スタディーズの構成は次のようになっている。自然科学工学系では、天文学、生化学、生物医学、生物学、化学物理学、化学、コンピュータ科学、計算学、電気及び電子工学、エネルギー学、工学、環境

科学、実験心理学、数学、機械及び構造工学、医療化学、有機金属化学、物理学、科学及び工学政策である。人文社会系では、アジア・アフリカ研究、アメリカ研究、人工知能学、経営管理学、認識科学、比較文学、現代ヨーロッパ研究、開発研究、経済学、教育学、英文学、ヨーロッパ文学、言語学、報道文化研究、音楽、哲学、心理学、ルネッサンス研究、ロシア研究、社会及び政治思想研究、社会学、人類学、社会福祉及び社会行政研究、社会学、都市及び地方研究、女性研究である。これを一見して分かることは、サセックス大学は現代社会のなかで大学はどのような存在価値をもっているかという問題を自ら問おうとしている大学である。

### 交流の経過と展望

サセックス大学のオールダム教授が、京都ブリテイシユ・カウンシルのプライド所長の紹介で広島大学を訪れたのは一昨年の秋のことであった。学長表敬訪問について、総合科学部では当時の天野学部長と懇談され、文学部では英語学英文学教室において交流の可能性について打診があった。その後、アメリカ史専攻のコウリン・ブルックス教授が来広、更に話し合いが行われた。また、広島大学からは天野教授がサセックス大学を訪問され、総合科学部としてはモデルとすべき大学であるとの結論を得られた。文学部としても、ブ

リテイシユ・カウンシルの奨学金や文部省の科学研究費の獲得、海外派遣留学生枠の増大などに好結果が得られると判断した。そこでオールダム教授が再度来広された時に二学部が協力して大学間協定を結ぶ方向で努力したいと申し出たのである。サセックスの方でも検討が加えられた結果、この度の協定締結に到った。副学長の挨拶によると、「海外の数少ない大学と濃密な関係を持つことを希望している」そうであるから、我々としても今後大いに努力する必要がある。是非各学部から色々な交流計画を提案して頂き度いものである。

最後に若干の個人的感想を書き加えることを許して頂き度い。私がサセックス大学を訪ねたのは一九六六年のことであり、キャンパスは今日の広島大学の新キャンパス程度の完成度であったが、それでも英国でも最も古い王国の一つであるサセックスの落着と、近くのプライトンの華やきとが融け合って魅力的な雰囲気を持つていた。英文学ではデイヴィド・デイチーズ教授が活躍していた。それ以来英国には何回か行ったが、サセックス大学を訪ねたことはない。この次英国に行く時には、是非サセックス大学のその後の発展を見て来たいものである。サセックス大学では日本語プログラムの創設も計画されており、広島大学でも外国人教師のリクルート問題など相互に協力すべき分野は多くあるように思われる。